



ユネスコスクール便り

令和3年2月10日

No.102 大牟田市13校スクール
担当者通信

つながりを大切にし、

かかわりを深める児童生徒の育成



「海洋教育こどもサミット 2021 in おおむた」開催!



文化会館にて、zoomを活用したハイブリッド型で開催されたサミット

1月22日(金)に「海洋教育こどもサミット 2021 in おおむた」が開催されました。このサミットは九州・沖縄で海洋教育に取り組む学校が参加して行われるもので、本年度は沖縄県から竹富町、糸満市、鹿児島県から与論町の学校の参加がありました。また、大牟田市からは海洋教育推進校であるみなと小、天領小、駛馬小、天の原小の各小学校が参加しました。

本年度はコロナ禍の中で、文化会館と各参加校を zoom で結んだ「ハイブリッド型」の開催となりましたが、例年通り、非常に内容の充実したサミットとなりました。パネルディスカッション(代表校による意見交流)では、竹富町の中学生から「海に潜っていて、この2年間で珊瑚が減ってきているのを感じる」という意見が述べられ、体験に基づいた現状認識の重要性を感じました。

体験を学びへと転換するカリキュラムを追究することが、行動変容を促すESDにつながると感じたサミットでした。



東京大学 及川先生からの指導助言

特色ある実践事例の紹介

ぼくたち、私たち 環境探検隊 明治小学校



本校は、全学年の子ども達がエネルギー環境教育に取り組んでいます。5年生の子ども達は、総合的な学習の時間に堂面川の下流に川探検に行き、なぜこんなにも川が汚れているのかという課題をもちました。そこで、川の下流と上流の水質をCODや透視度計を用いて測定すると、上流の方がきれいなことが数値的にも明確になりました。また、川の汚れの主な原因が、生活排水であることも分かり、自分たちにできることを考え、実践してきました。

11月26日の5校合同環境・川サミットで学んだことを発信することができ、学びを深めることができました。



「環境・川サミット」で発信する子どもたち

「上内よかところ見つけ隊

～汐井川を調べよう～を通して 上内小学校



本校は、環境教育を軸にESDに取り組んでいます。3年生は、社会科の校区探検において、いくつもの川が流れていることに気づき、それらの川はつながっているのか、川にはどんな生き物がいるのかという課題をもって、汐井川や岡川の調査を行いました。

その結果、川はそれぞれつながっていること、水深が浅い汐井川にはサワガニが多く、深い岡川にはカワムツやドンコなどの生物が多いことが分かりました。現在、きれいだといわれている校区の川ですが、昔と比べ、生物が減っているそうです。子ども達は、川に棲む大切な生物たちを守っていくために、川にゴミを捨てたり、生活排水で川を汚したりしないように、考え、実践し、家庭や地域に発信しています。



岡川の調査を行う子どもたち